



感染症拡大のリスクを抑え、市民マラソン大会を開催するための  
**主催者向け ガイドライン** 2020年6月26日 発行

**GUIDELINES** For citizen' s marathon organizers  
To prevent the spread of infections disease.

感染症拡大のリスクを抑え、市民マラソン大会を開催するための

# 主催者向け ガイドライン

**GUIDELINES** For citizen's marathon organizers  
To prevent the spread of infectious disease.



## ガイドライン作成の理由 … P.1

1. 市民マラソン大会は、重要な「地域活性イベント」
2. コロナ禍からの精神的復活のためにも、市民マラソン大会を再開しよう！

## 開催前の実施事項 … P.3

1. 感染症対策の方針・組織の整備
2. スタート・ゴール会場、コース上、協力会社との共同準備
3. ランナー、運営スタッフ、観客など参加者への周知

## スタート・ゴール会場、コース上での実施事項 … P.4

1. 発熱者・体調不良者の参加を防ぐ
2. 衛生環境を維持する
3. 密閉させない
4. 密集させない
5. 密接させない

## 大阪観光局による大会主催者へのサポート … P.6



[本件に関するお問合せ]

公益財団法人 大阪観光局 経営企画室 スポーツツーリズム担当

TEL: 06-6282-5914 Email: sports@octb.jp



## 市民マラソン大会は、 重要な「地域活性イベント」

昨今の健康ブームや自治体主催のマラソン大会の増加により、市民ランナーの数は国内で約1,000万人に上ると言われております。また、マラソン大会は日本陸上競技連盟の公認大会を含め、年間1,500レース以上が開催されており、マラソンは「国民的スポーツ」になっていると言えます。

しかし、今年は新型コロナウイルスの影響を受け、毎年開催されてきた殆どのマラソン大会が中止を余儀なくされており、大会を楽しみにトレーニングを重ねてきた多くのランナーを落胆させています。特に市民マラソン大会は、地域コミュニティ結束の象徴であり、関係者の長年の献身的努力により創り上げられてきたものが多いため、いったん中止になれば継続への機運が低下し、そのまま立ち消えになるリスクがあります。また、開催によって毎年もたらされていた街の活気、参加者による交通、飲食、宿泊の消費も失われ、地域の活力と景気にも暗い影を落とすことが懸念されます。

そのような中、5月後半には新規の感染者数が低い水準に留まるようになり、政府による緊急事態宣言も解除されました。WHOが「新型コロナウイルスは無くならないかもしれない」と公式に発表している中、今後は感染拡大のリスクを抑えながら、経済及び社会活動を再開する努力が求められています。

したがって、ただ「嵐が過ぎ去るのを待つ」方法をとっている限り、市民マラソン大会を再開できる時期は当分の間訪れません。私たちは今こそ、「どのようにしたら、開催できるか?」を、関係者の知恵と工夫により、見つけ出すことが重要だと考えます。



## コロナ禍からの精神的復活のためにも、 市民マラソン大会を再開しよう！

大阪観光局は、プロスポーツなど「観る」スポーツとともに、ランニングやサイクリングなど「する」スポーツの活性化を目指す「スポーツツーリズム」を、重要施策に掲げています。そのため私たちは、感染リスクを抑えながら、各種スポーツ・イベントを再開する環境づくりに全力を挙げております。

なかでも、マラソン大会の中止・延期が相次ぐ中、「早く、大会を開催してほしい」「屋外イベントの感染リスクは低いのに、なぜ中止するのか」との声が高まっており、マラソン大会の主催者からも、「安心・安全な大会運営のために、どのような準備をすれば良いか示してほしい」との要望が寄せられています。

そこで大阪観光局は、大阪からマラソン大会再開の機運を創り出すために、本ガイドラインの作成を決めました。最新の政府の対策方針、大会運営者やランナーなど関係者の意見をもとに検証を重ね、感染症専門家の監修を経て公開するに至ったものです。今後も新たに発見される感染症の性質や拡大状況、各方面のご意見を反映しながら、改訂して参ります。

本ガイドラインを契機として、全国各地で市民マラソン大会が再開されるようになり、人々を活気づけ、コロナ禍を乗り越える大きな精神的力となることを心から願います。

**本ガイドラインは、大阪府の自粛要請・解除の方針(大阪モデル)に沿ったものであり、警戒信号の緑色が点灯していることを前提としております。**



# 開催前の実施事項

## Items to Implement Before the Event



セルフチェックリストとしてもご利用いただけるよう  チェックボックスをご用意しました。

### 1. 感染症対策の方針・組織の整備

- ① 感染状況に関する正確な情報源を確保しておく。  
(例)厚生労働省(mhlw.go.jp)、大阪府(pref.osaka.lg.jp)、大阪市(city.osaka.lg.jp)
- ② 延期および中止を判断する基準・プロセスを定めておく。  
(例)「大阪モデル」に基づき、開催の自粛を求められた場合
- ③ 感染症対策の責任者及び組織、役割分担を明確に定め、文書化しておく。

### 2. スタート・ゴール会場、コース上、協力会社との共同準備

- ① 主催者と会場管理者の役割分担と責任範囲を明確に定め、文書化しておく。
- ② スタート・ゴール会場では以下の点に関する取り組みを確認し、対応が不足していると思われる場合は、追加対策を主催者として準備する。
  - A) トイレなど共用部の清掃・消毒、ゴミの廃棄(場所、方法ならびに頻度)
  - B) 会場管理スタッフ(会場の協力会社を含む)への感染防止策の指導
- ③ 主催者は会場管理者と協力し、感染の疑いのある参加者を発見した際の緊急連絡先(会場付近の病院・保健所等)リストを作成しておく。外国人の受け入れ可能な病院も確認しておく。
- ④ 会場管理者と協力し、緊急連絡網を作成しておく。
- ⑤ 各協力会社とも、上記に準じた準備を行う。

### 3. ランナー、運営スタッフ、観客など参加者への周知

最大の感染防止策は、参加者の意識を高めることである。したがって以下を徹底する。

- ① 全ランナーに対し、スタート・ゴール会場でネックゲーターを着用することを、ホームページ等で予め告知する。運営スタッフや観客にはマスク着用必須を告知する。
- ② 全参加者に対し、以下の場合は参加を控えるよう予め告知する。
  - A) 発熱がある時
  - B) 咳・咽頭痛・息苦しさ等の症状が認められる時
  - C) 保健所等の健康観察下にある時
  - D) 政府が指定する期間(本日現在は2週間以内)に海外渡航歴がある時  
(当該期間に帰国した方と接触した場合も含む)
  - E) その他、体調が優れない時(味覚・嗅覚異常を感じる時や疲労倦怠感を強く感じる時などを含む)
- ③ ランナーに対し、参加申込時あるいは申込後の確認メール等にて、以下を伝えると共に、同意できない場合は参加をキャンセルするように告知する。
  - A) 来場時に体温チェックと体調の申告が必須。
  - B) 上記A)の結果、感染が疑われる症状がある場合は、参加を遠慮いただき、付近の医療機関に連絡させていただく場合がある。

# スタート・ゴール会場、コース上での実施事項

Items to Implement on the Start/Goal Point and on the Course



セルフチェックリストとしてもご活用いただけるよう  チェックボックスをご用意しました。

## 1. 発熱者・体調不良者の参加を防ぐ

- ①主催者及びボランティアスタッフを含む大会関係者に対して、大会当日の体温測定と記録、健康チェックを徹底し、発熱など体調がすぐれないスタッフの勤務は停止する。同様の対策を会場管理者、協力会社にも要請する。なお、体温測定は非接触型体温計やサーモグラフィー等を使用する。
- ②全参加者に「大阪コロナ追跡システム」への登録を要請する。(大会終了後、参加者に感染者がいたことが発覚した場合、健康状態に応じて医療専門家の相談を受けるよう、システムを通じて参加者に連絡する)
- ③会場内にケガに対処する救護所とは別に、感染症用の隔離スペースを設け、医師または看護師を常駐させる。
- ④全ランナーに対して、当日の体温測定と記録、健康チェックを徹底し、発熱など体調がすぐれないランナーの出走を禁止するとともに隔離スペースへ誘導。常駐する医療関係者の指示に従って対処する。

## 2. 衛生環境を維持する

- ①受付、更衣室、給水・給食場所、トイレなど会場やコース途中各所に消毒液を配置し、使用を促す案内ボードを設置する。
- ②ランナーを除く全参加者に対し、マスク着用を強く要請する。ただし、給水場など、マスクをしていないランナーと接する箇所にアテンドする運営スタッフは、飛沫防止用のフェースシールドと手袋の着用を必須とする。
- ③全ランナーに対して、スタート・ゴール会場でのネックゲーターの着用を義務付ける。ネックゲーターを持参しなかったランナーのために、十分な使い捨てマスクを用意しておく。ネックゲーターとマスクを着用し続けるの競技は危険なため、スタート後に取り外すよう、ランナーに促す。
- ④全ランナーに対し、感染症に対する注意喚起と手洗い、手指の消毒励行を告知する。(公式ホームページ、会場内放送、サイン設置等)
- ⑤給水はスタッフによるランナーへの手渡し行為を避け、紙コップに水を入れて机の上に並べるなど、ランナー自らがドリンクを取れるように工夫する。
- ⑥給食場所を設ける場合は、皮をむいて食べるバナナ、みかんや、個装された飴などを提供し、スタッフによるランナーへの手渡し行為を避け、机の上に並べるなど、ランナー自らが食品を取れるように工夫する。
- ⑦ごみ箱を各所に配置し、あふれないよう、こまめな回収を徹底する。
- ⑧手洗い場に石鹸を備える。
- ⑨マイクの共有は最小限に止め、頻繁に消毒を行う。
- ⑩携帯用拡声器を活用し、大声での誘導、アナウンスは避ける。

## 3. 密閉させない

- ①パテーションなどの目隠しを併用することにより、更衣室の窓をできるだけ開放し、換気に努める。または、窓付きテントなど、風通しの良いテントを更衣室として使用する。
- ②更衣室の構造上、換気が不十分と思われる場合は、外気を取り込むための追加の措置を行う(出入口近くへのサーキュレーターの設定等)

# スタート・ゴール会場、コース上での実施事項

Items to Implement on the Start/Goal Point and on the Course



セルフチェックリストとしてもご活用いただけるよう  チェックボックスをご用意しました。

## 4. 密集させない

- ①更衣室では以下を実施する。
  - A) スペースをできるだけ広く取り、ランナー同士がソーシャルディスタンスを十分に取れるよう、必要に応じて利用者数の制限を行う。また、可能であれば、スタート・ゴール時間に応じた利用可能時間を指定するなど、更衣室の行列を少なくする工夫を行う。
  - B) 更衣室内をマーキングするなど、ランナーがソーシャルディスタンスを確保できるよう工夫する。
  - C) 更衣室内でのマスクまたは代用品の着用を義務付ける。
- ②仮設トイレの数を増やし、行列をなるべく分散する。
- ③受付について以下を実施する。
  - A) 受付は大会当日に行わず、前日受付または郵送、事前のオンライン受付に限定する。
  - B) 現地受付の場合は受付時間を延長するとともに、受付時間を指定するなど一度に多人数が集中しない工夫を行う。
  - C) 受付スペースを広く取り、必要に応じてチェーンパテーションやサイン等を活用し、受付待ちのランナーが、前後左右2m目安(最小1m)を確保できるよう工夫する。
- ④スタート地点は密集が避けられないため、全ランナーにネックゲーターの着用を義務付けるとともに、会話を控えるようアナウンスする。
- ⑤スタート時刻の間隔を空けるウェーブスタートを取り入れるなど、スタート時のランナー集団をできるだけ小さくする工夫を行う。
- ⑥観客に対し、互いのソーシャルディスタンスを確保するよう、サイン表示やアナウンスを通じて告知を行う。
- ⑦給水場所や給食場所ではテーブルをできるだけ長く設置し、ランナーの密集を防ぐ工夫を行う。

## 5. 密接させない

- ①ランナー同士の握手やランナーと応援者とのハイタッチ、ハグなどによる直接の身体的接触を避けよう、ホームページ、掲示、アナウンス等により注意喚起を行う。
- ②受付など対面で接する場所に、透明なパーテーションを置くなど飛沫防止の対策を行う。



## 大阪観光局による大会主催者へのサポート

Support for MICE Event Organizers  
from the Osaka Convention & Tourism Bureau

前例がない環境下での開催となりますので、  
主催者の皆様におかれましては、  
予期しない様々な課題に直面することと存じます。  
大阪観光局では、以下のようなサービスをはじめ、  
できる限りの支援をさせていただきます。  
お気軽にご相談ください。

- 会場付近の保健所・医療機関に関する情報提供
- マスクなどの衛生用品やネックゲーターなど  
飛沫感染を防ぐグッズ販売、サーモカメラ・体温測定機器の  
レンタルサービスなどを提供する事業者の紹介
- その他、各種情報の提供



[本件に関するお問合せ]  
公益財団法人 大阪観光局 経営企画室 スポーツツーリズム担当  
TEL: 06-6282-5914 Email: sports@octb.jp